

待機児童完全0を目指して。

平成 30年の統計では、目黒区の待機児童数は、**330名**です。潜在的な待機児童数はさらに多く、平成 26年からの5年間に、保育施設は **1718**か所も増えたにもかかわらず、待機解消ができていないのが現実です。

保育施設が増えても、保育士の確保、待遇改善などの根本的な構造改革がなければ、未来を担う子どもたちの受け皿を確保することはできません。

ご高齢の方にも安心して暮らしていただける目黒へ。

目黒区内において費用負担の軽い、特別養護老人ホームは **6**件、小規模多機能ホームは **3**件です。特養ホームにおいては、常時 **100**名程度の待機状況であり、入居までには **1**年以上の期間を要します。

高齢化社会がさらに進行し、医療・介護をはじめとする社会保障費の増大、年金の減額など高齢難民が増えると想定されるいま、最優先の課題と考えます。



いじめ/虐待を一人一人考える。

児童虐待の疑いがあるとして全国の警察が昨年に児童相談所に通告した **18**歳未満の子どもの数が**8万104**人となり、過去最多を更新しました。目黒区においても、痛ましい出来事を繰り返してはいけません。

身近な近隣、周囲の目こそが子どもたちを守る最大の術と考えます。行政においても児童相談所との連携強化、避難施設の確保など、**目黒区は基礎的自治体として、拡大した権限と責任に相応しい展開をすべきです。**



高額な区議会議員の報酬、多すぎる議員定数ともに3割削減へ。

目黒区議会議員は、月額 **59万9000**円（年間 **718万8000**円）の報酬のほかに、期末手当として **203万6000**円、また政務活動費として、年額 **168**万円の支給もあり、区議一人当たりは、**1093万 4550**円にものぼります。

全て私たち目黒区民の税金です。区の歳入が減少している中、ただちに削減をおこない、目黒区の医療/介護、未来の子供たちの財源にするべきと考えます。

犬猫/ペットの殺処分、真のゼロへ。

我が家の愛犬、猫ちゃんをはじめとするペットも我が家の家族です。殺処分率はここ **10**年において犬・猫共に減少傾向です。しかし改善はみられるものの、今後ペットの高齢化も問題となっており、行政においては、**人手・収容能力などの確保が困難なため、民間ボランティアと協力し保護および譲渡の間口を広げることが重要です。**

保護犬などの里親制度の促進と併せ、ボランティア、シelterへの補助金、寄付の促進など行政が動きます。

ごみ紛争、地域問題を解消。

「集積所やめたら家庭ごみが減った」。集積所を廃止し、「戸別収集」を導入したところ、**ごみの量が減るという効果が現れ、導入する自治体が増加しております。**

特定の個人宅へ長期にわたりごみ集積所を設置する負担は無くなり、利便性の向上やごみ管理に対する意識向上、地域全体の見守り機能も高まると考えられております。

他区のごみ焼却をするほどの大規模な清掃工場があるにもかかわらず、いまだ対応が遅れている目黒区。行政にも問い合わせが多いこの問題、早期に改善、解決いたします。

生年月日：1969年6月11日山形県生 49歳
早稲田大学系属 早稲田実業学校 中等部 高等部
早稲田大学 社会科学部 心理学専攻 卒業

金融:国際証券 教育関連企業 IT/広告代理店
2017年 第48回衆議院議員総選挙出馬
2018年目黒区地域政党 無所属の会代表 就任